



# グローバルPBL体験談

実施年度	2021年度
プログラム連番	168
実施形態	オンライン
担当教員	土木工学科 稲積 真哉先生
実施期間	2022年3月1日～3月8日
実施協定校	カセサート大学(タイ) スラナリー工科大学(タイ) アジア工科大学(タイ)

# 参加学生体験談（要旨）

土木工学科

1年

長期休暇を利用して英語を使う機会を持ちたいと思い、夏休みのgPBLに続き参加しました。このgPBLを通して、海外の友人とのコミュニケーションスキルの向上・発見、国際的なプレゼンテーションの経験を得ることができました。

グループワークを通して感じたのは、相手の国に興味を持つと、会話のきっかけが増え、仲良くなれるということです。日本語や日本の文化に興味を持って聞いてきてくれたときに、嬉しくなりましたし、距離が縮まったと感じました。同じことをタイの学生にもすれば、相手も喜んでくれるはずで、海外の人と仕事をする際のコミュニケーションスキルとして重要だと思うので、気付きを得られてよかったです。また、相手に自分の意図することを過不足なく伝えるにはどうすればよいか考え、工夫する力がついたと思います。チャットを使ったり、画面共有して進めたりすることで、円滑なコミュニケーションになることを学びました。

英語でのプレゼンテーションとなると、日本語のとき以上にプレゼンスキルに気を使いました。ゲストスピーカーのプレゼンを聞いていて、ぱっと見て理解できる写真やイメージ図があったり、箇条書きになっていたり、文字が極力抑えてあったりするのには、英語だと余計に見ていて嬉しいスライドです。これらは、自分がスライドを作る際の参考になりました。知らず知らずのうちに、国際的なプレゼンを先取り感覚で体験できていることは、大きな魅力です。国際的な場ではこのように進行されるのだな、と使っている英語に耳を傾けることで、学びが深まりました。レクチャーでは、英語のシャワーに加えて、土木（地盤工学）の専門用語のシャワーを浴びることが出来ます。これにより、英語による専門用語の習得ができました。また、いちいち日本語に訳してメモを取るの大変なので、英語を使っただけの書き取りの割合が増えました。そのため、英語で英語を理解することを繰り返し行う機会となり、英語に慣れることができました。

対面での開催のときの写真を見て、私もタイの友人と東京観光に行ってみたいと思いました。夏の回には対面で参加できると嬉しいです。

# 参加学生体験談（要旨）

土木工学科

2年

このプログラムに参加するのは2回目ですが、タイの人がとても優しく、ためグループワークがとても楽しく、前回よりも充実した時間を過ごすことができました。また、英語に触れながら土木のことを勉強できるのもこのPBLの魅力の一つだと思っています。

今回のグループワークは、最終プレゼンテーションについての話し合いが主でしたが、会話がうまくできず行き詰っていると、タイの人が日本のことについて尋ねてくれたりして、身近な話も交えながら楽しく進めることができました。また、このグループワークを通して、短い期間でしたが、グループの仲がとても深まったように感じています。とても充実した8日間を過ごすことができました！英会話力を向上させたいと思っている方は是非参加してみるといいと思います。

土木工学科

1年

本プログラムは主に午前中に講義、午後にグループワークという構成で進行していきます。講義では土木についてのプレゼンを聞き、グループワークでは最終日に行うプレゼンの準備をします。

私はグループワークのときに、初めは自分の英語に自信がなくて会話が上手いかなかったのですが、だんだん慣れてくるとお互いの言いたいことがなんとなく伝わるようになりました。「伝わらないから諦める」ではなく「伝わらないなら伝わるように工夫する」ということが大事だと思いました。わからないことはわからないと言えることが大切です。

お互い英語が母国語ではないので難しい表現等はほとんど使われません。将来本格的に英語を使いたいと考えてる人で、何から始めればいいのか迷ってる人は最初のステップとしてこのプログラムに参加するのがいいと思います。

# 参加学生体験談（要旨）

土木工学科

2年

私は現在の自分自身の英語力が、どれくらいのレベルにあるのかということ把握する目的で本プログラムに参加しました。

実際にプログラムに参加すると、タイやインドネシアの大学の教授が英語を用いて研究内容を発表していました。しかし、残念ながら研究の概要をつかむことができずに、終わってしまったということが正直な感想です。その一方で、グループワーキングで同じ班員とタイで有名な俳優やアニメ、スポーツについて活発な議論を行うことができました。そのため、日常的な会話に関しては、現在の英語力でも十分に対応できると実感しました。

機械工学専攻

2年

GPBLに参加することによって、土木のプロジェクトにおいても異なる国に異なる問題が存在することを深く認識しました。また、それぞれの発展のための研究の重点も異なってくることも学びました。

土木に関する研究問題を解決するには、現地の実情と需要を十分に考慮しなければならず、関連技術を十分に応用することの大切さも再認識しました。また、私自身の今後の研究内容についてもっと考えさせられました。

# 参加学生体験談（要旨）

土木工学科

1年

今回で2回目のgPBLの参加となりました。1回目の参加の際は英語での会話に圧倒され、会話を理解したり、自分の気持ちを表現するのにとても苦労しました。

しかし、今回のgPBLでは、徐々に英語での会話に慣れ始め、英語に対する抵抗が薄れていると気がづきました。最終日でのグループワークの発表の際には、先生方からの質問を英語で答えることができ、自分の英語力が成長していることを実感でき自信を持つことができました。

また、gPBLの活動を通じて、他の国の学生との交流が増え、様々な文化や習慣を知ることができ、自分の価値観を広げる良い機会となりました。英語での表現は最初は非常にナーバスになりがちです。ですが、このプログラムを経験することで、そのような気持ちを減らし、英語での表現に挑戦する気持ちを高める機会になると思います。また、海外の土木科の学生と実際に会話をすることで、その国での文化や土木に関する事情を理解することができました。